

馬室埴輪窯跡(鴻巣市)

まむろ

高齢者福祉センター白雲荘のフェンスに「史跡 埴輪窯跡」の表示があった



正面が西側から見た馬室埴輪窯跡



北西側から見る



標柱が立っている



正面の斜面のコンクリート土間下に三基の埴輪窯跡が埋戻し保存されているという



左手の標柱には「史蹟 馬室村埴輪窯址」とある/右手の標柱には「埼玉県指定史跡 埴輪窯跡 昭和9年3月31日指定」とある



前方の斜めのコンクリート土間の下に三基の窯跡が保存されている





昭和9年3月31日指定

埼玉県指定史跡

馬室埴輪窯跡

埼玉県指定史跡

馬室埴輪窯跡

時代 古墳時代後期

古墳に埴輪を立て並べる風習は、古墳文化の中心地であった関西地方で生まれ、4～6世紀の約300年間にわたって北海道を除く全国各地で盛んに行われました。埴輪には、円筒形、人物形、動物形、家形など方には大きく二つの方法があります。一つは、地野焼きで、日本では縄文土器が出現して以来の伝のように台地の斜面などを利用し、本格的なものに、朝鮮半島からわが国に伝わった新しい技術です。この窯を使って焼く方法は、一度に多量の良

紀代に入ると関東地方でも広く普及しました。馬室埴輪窯跡は、昭和7年に初めて正式な発掘子を知る上でとても貴重であることから、昭和9現在までに、保存地区周辺には10基以上の埴輪作者)たちの集落も発見されています。このこといへん重要な遺跡です。

ここで生産された埴輪は、箕田古墳群をはじめものと考えられていますが、埴輪を焼いていた期間であったものと思われま

平成4年3月

心地であった関西地方で生まれ、4～6地

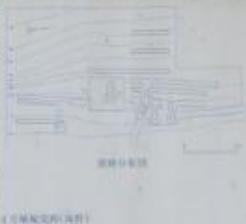
で盛んに行われました。たくさん種類がありますが、その焼き面に浅い穴を掘って焚き火のように焼く伝統的な技法です。もう一つは、馬室窯跡り窯で焼く方法です。後者は5世紀の中で、それが埴輪生産に導入されたもので質な埴輪を焼くにはとても有効で、6世

調査が行われ、古墳時代の埴輪生産の様子

年

に県指定史跡に指定されています。窯跡が確認され、台地上には埴輪工人(製から、工人集団のくらしを知る上でもたとして、荒川流域の古墳へ運ばれていた間は5世紀後半～6世紀末までの約120年

埼玉県教育委員会
鴻巣市教育委員会



振り返って見る



こういった斜面を利用した登り窯で埴輪が焼かれていたようだ



登り切ったところは公園の一部となっている



こういった斜面も利用されていたのであろうか/また、台地上には埴輪工人たちの集落も発見されたという







南側から見たところ



南側にあるこの公園の入口



そこから左手の西方向を見るとこんな風景



参考ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/13_knos/kamaato.html

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/hist/s1/mamuro.htm>

http://www.geocities.jp/wind_of_hometown/bunkazai/hakkutuhin.html

<http://blog.goo.ne.jp/daidi/e/4f3cffa342087f37cef3608086bf947>

